

湘南藤沢学会 活動報告書

国際学会「Global Fashion Conference」における研究発表

政策メディア研究科 川崎和也

1. 活動目的

本研究は、2010年代初頭から研究が活発化している「サステナブル・ファッション」という研究領域に依拠している。サステナブル・ファッションは、近年のSDGsをはじめとした国連が主導する環境配慮のための取り組みを背景として、環境の持続可能性を目的とした衣服の生産システムを検討することを目的としている。本研究はそのサステナブルファッションを背景として、「素材」の生産過程の環境的持続可能性を模索することを目的として、広義のバイオテクノロジーの応用を検討している。具体的には、物理学者のフリーマン・ダイソンが提唱した一般市民が生物実験に参画する運動「DIY バイオ」を前提として、酢酸菌・酵母菌の混合体を培養環境で育成し、当該素材が培養課程で排出するセルロースを抽出、後加工し、人工革として応用するというものである。また、こうした素材開発実験で判明した知見を具体的なデザイン方法論へと応用するために、「実践を通じたデザインリサーチ (Research through Design)」を前提として、衣服やそれに関わるサービスを制作することで社会的に実装することを目指している。

参考文献：

Fletcher, K. and Tham, M. eds., 2014. Routledge handbook of sustainability and fashion. Routledge.

水野大二郎, 2014. 学際的領域としての実践的デザインリサーチ: デザインの, デザインによる, デザインを通じた研究とは. Keio SFC journal, 14(1), pp.62-80.

2. 活動概要

a. 基本情報

日程：2018年10月30日～2018年11月2日 場所：イギリス・ロンドン芸術大学

b. 発表

学会ではファッション研究者との研究発表大会およびディスカッションを実施した。本研究との直接的な関連性をもつサステナブルファッションに依拠した研究者との意見交換は有意義な発表機会となった。



c. 学会の成果

本学会の参加によって、申請者が執筆予定のジャーナル論文あるいは博士論文に、学会に参加するサステナブルファッション研究者と直接議論した知見を活かすことができる。また、学会に参加した際に得られた知見を、現在準備中の社会デザイン学会への論文とSFCレビューに投稿予定の論文に記述することで、国内のデザイン研究やSFCにおけるデザイン研究、環境問題に関する研究に貢献できるようにしたい。